

松本市森林再生市民会議 令和5年度第6回運営委員会 議事録要約書

日時 令和6年1月29日(月)

午後7時～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 #07イベント牛伏川結果報告(資料1)

●実施結果

- ・日時：令和5年11月4日(土)午後1時～4時
- ・会場：牛伏川階段工周辺(松本市内田)
- ・内容：『土砂災害から生活を守ってきた山の取り組みを歴史的に学ぶ』
～牛伏川階段工に学ぶ山地災害史とその対応～

2 #08フォーラムについて(資料2)

●実施予定

- ・日時：令和6年2月4日(日)午後1～4時
- ・会場：あがたの森文化会館 講堂ホール
- ・内容：これまでの活動と市民からの意見の紹介(三木委員長)
森林と市民を近づける伊那市の取り組み(平賀裕子氏_伊那市ミドリナ委員会)
パネル展示者紹介
ワークショップ

- グループワークはビジョンの骨格づくりを念頭に置き、いくつかのキーワードを準備して、そのキーワードに沿ってグループ分けし、参加者の方々に議論していただく。
- グループ分けしたテーブルに白地図を準備し、どのようなことをやっていきたいか、50年後の森林をどのようにしたいか、場所も合わせて書き込みながら議論していただく。
- キーワードは、用途別に「観光、教育、なりわい、暮らし、ものづくり、環境、防災」を候補として準備し、市民向けアンケートの結果や当日の議論の流れを基に適宜調整する。

3 #09イベント木工体験について(資料3)

●実施予定

- ・日時：令和6年3月10日(日)午前10時～午後3時
- ・会場：あがたの森文化会館 講堂ホール
- ・内容：Aコース：生の木(丸太)をそのまま加工するウッドワーク体験
Bコース：身近に使える製品キットによるお手軽木工体験

4 アンケートについて

(1) 市民あてアンケート（資料4-1）

- 問4「松本市の森林に期待する役割」について、「野生動植物が生息するための場所」と「きのこや山菜などの林産物の生産」の2つが比較的高い回答率であるというのは松本市の大きな特徴かもしれない。
- 問5「松本市の森林の利用（仕事以外）」については、「景観」に対する関心度が非常に高い結果となり、ビジョン作成に活かしていく際のポイントになってくる。
- 「松枯れ対策」については、自由記述による意見も多く、更に地区別や年齢別で分析するなどして詳細に分析する必要がある。
- アンケート対象としなかった18歳未満の市民についても、意見聴取やイベントを開催するなどして意向を調査したほうがよい。

(2) 森林所有者あてアンケート（資料4-2）

(3) 事業者あてアンケート（資料4-3）

- 2月初旬に発送→2週間程度の回答期間→3月上旬までに集計
- 森林所有者は6地区でそれぞれ25名抽出して計150名、事業者は計17事業体を実施。

5 ビジョン素案づくりについて（資料5）

- 暮らしの中に森林を取り込む視点について、アンケート結果から読み取るのは難しいため、委員からの提案としてビジョンの中に盛り込んでいくような対応を図ったほうがよいのでは。
- 「私にとっての森林」や「人にとっての森林」という視点も取り入れてはどうか。最近では自分の居場所がないということをよく耳にする機会もあり、その居場所として例えば森林という切り口も考えられる。
- まずは委員長と事務局でたたき台を作成し、そのたたき台に対して委員に手を加えてもらうような形で進めていく。
委員に手を加えてもらうタイミングでは、丸一日かけてビジョン素案に対するブレインストーミングを実施する。その過程がないと素案作成者のみの意図なのか、委員の総意なのか、アンケート結果を踏まえた内容なのかといった整理ができない。
- 次回運営委員会は#09イベント後の3月中～下旬で予定することとし、事業者・所有者のアンケート結果報告、フォーラムのまとめを行って、ビジョン素案作成に向けた方向性や項目の確認を行う。

議事録要約

1 委員長あいさつ

(三木委員長)

市民向けアンケートも先日終了し、今週末にはフォーラムも予定されている。いよいよビジョン作成に向けて具体的な内容を固めていく時期に来ており、皆さんの協力を得ながら進めていきたい。

2 会議事項

(1) #07牛伏川結果報告(資料1)

(市)

#07イベントの結果について報告

(2) #08フォーラムについて(資料2)

(三木委員長)

#08イベントについて説明

(小山委員)

グループワークについては、ビジョンの骨格づくりを念頭に置いている。グループワークでは例えば「里山、暮らし、林業」といったいくつかのキーワードを準備し、そのキーワードに沿ってグループ分けし、参加者の方々に議論してもらう。

グループ分けしたテーブルに白地図を準備して、どのようなことをやっていきたいか、50年後の森林をどのようにしたいか、場所も合わせて書き込みながら語っていただくことを想定している。グループワークでの議論を充実させるため、グループワークの前に行うパネル展示紹介やパネル展示者との歓談からうまく連動させたい。

(渡辺委員)

会場の入り口付近に持ち寄りで書籍を展示するのはどうか。また、可能であればキッズスペースを設営してもらえると嬉しい。

(香山委員)

キッズスペースを設営するためには、完全に張り付きの担当者が必要になる。子どもだけ勝手に遊ばせるのは難しい。

(小山委員)

参加者の子どもを預かることについて事前にその告知がなされておらず、後になって「キッズスペースがあるなら参加したかった」といったトラブルが発生するのもよくない。そのため、今回のフォーラムに関してはキッズスペースは設営しないほうが良いと考える。今回の提案を受けて、来年度のイベントやフォーラムでは、キッズスペース設営を前提に企画してはどうか。

書籍に関しては、パネル展示の意図が不明瞭になることから実施しないほうがよいのでは。

(三木委員長)

書籍の展示については、イベントの一つとして来年度検討してみるとよいかも。キッズスペースについては、設営する場合はプロの保育士に委託するのが安全である。来年度はそうしていきたい。

(市)

ワークショップのテーマについては、メッセンジャーでも委員から「街なか、里山、林業地、観光、教育、なりわい、暮らし、ものづくり」といった候補が上がっている。当日の議論の流れ次第で調整すればよいか。

(小山委員)

テーマは場所で分けるか、用途で分けるかという視点で大きく2つに分かれる。当日の流れはもちろんのことながら、アンケート結果や本日の議論も踏まえながら決めていきたい。

(三木委員長)

用途別に分けたほうがよいのでは。用途に分ければ自ずと場所も分かれてくるのではないか。例えば、林業は街なかでやる理由がない。

(小山委員)

用途別に分けるのであれば「観光、教育、なりわい、暮らし、ものづくり」になる。

(三木委員長)

他にあるとすれば「環境、防災」といったテーマになるか。

(3) #09木工体験について(資料3)

(市)

#09イベントの木工体験について説明

(香山委員)

子どもも参加するため、その場の状況に応じてスタッフの皆さんには臨機応変な対応をお願いすることも出てくる。参加者と同じように作業できる服装でご協力をお願いしたい。

(4) アンケートについて

ア 市民あてアンケート(資料4-1)

(環境アセスメントセンター)

市民あてアンケートの集計結果について説明

(小山委員)

問4の「松本市の森林に期待する役割」について、「野生動植物が生息するための場所」と「きのこや山菜などの林産物の生産」の2つの項目は、全国を対象にした世論調査では期待度が低い。一方で、この2つが比較的高い回答率であるというのは松本市の大きな特徴かもしれない。ただ、「野生動植物が生息するための場所」は若干バイアスが掛かっているとも考えられ、アンケート期間中に飯山市でのクマ問題が重なったことも影響しているかもしれないので、分析は注意を要する。

問5の「松本市の森林の利用（仕事以外）」については、「景観」に対する関心度が非常に高い結果となり、この結果をビジョン作成にどう活かしていくのかがポイントになってくる。

問11の「松枯れ対策」で興味深いのは、「道路沿いの危険木や災害のおそれのあるような箇所は、伐採したほうがよい」への回答がもっとも多い結果となった点である。裏を返せば、道路沿いや災害のおそれのある箇所のみ早急に対応してほしいとも受け取れるのでは。

地区別の整理で興味深かったのは、問10の「森林整備への参加」である。四賀地区については、「参加したくない」という回答が他の地区に比べ圧倒的に多い。安曇地区や奈川地区など同じ山寄りの地区とは対照的である。これが何を物語っているのか分析のポイントになる。自由意見の中にもヒントになる記述があるかもしれない。

また安心したのは、自由意見で分類してもらった項目を眺めると、今回フォーラムでテーマ設定しようとしている6分類はあまり的外れではない。「教育」については、アンケートの設問項目にはないのに、自由意見で比較的多くの記述があるのは、市民による潜在的な需要度を示しているのかもしれない。

(渡辺委員)

第一印象としては、この取組を1年半続けてきた中で、まだまだ市民にその情報が届いていない。市民の思いを汲み取れるようなビジョンが作れたらよい。

(小穴委員)

20年ほど前に四賀地区では原因不明の山火事が何度か発生しており、地域住民が森林に対してマイナスのイメージを持っているのは確かだ。松茸山も松枯れが激しくあまり希望が見えない中で、森林と距離を取りたいという意識がはたらいているかもしれない。少しでもそういった意識を和らげられれば。

(三木委員長)

四賀地区のように松枯れが激甚化している地域で対策を図れと言われても、危なくてできないというのが実情では。

(環境アセスメントセンター)

松枯れのアンケート項目については、自由意見についても地区や年齢で整理すると、実情をより理解できるのでは。

(小山委員)

松枯れに焦点を当てて分析していくのか、それとも、もう少し広い視点で分析したほうがよいのか、検討したほうがよい。松枯れに対する意見が松本市全体からであれば、それほど意識しなくてよい。

(渡辺委員)

今回のアンケート対象者は18歳以上であるが、18歳未満の市民の意見はどのように集約していけばよいか。

(小山委員)

三木委員長による御用聞きの対象として考えてもよいのでは。パブコメのような形で聞くのか、それとも真っ白な状態で聞くのがよいか、聞き方は吟味したほうがよい。

(三木委員長)

例えば、すべての高校や中学に満遍なく聞き取るのは不可能なので、その中でも自然活動を行っているサークルや課題解決型の学習を行っているグループ等に連絡して、意見を聞くのが現実的では。

(小山委員)

予めそういった活動を行っている高校や中学を調べて意見を聞きに行ったり、または、高校生や中学生向けのイベントを企画して意見を出してもらおうといった選択肢も考えられる。

イ 森林所有者あてアンケート（資料4-2）

ウ 事業者あてアンケート（資料4-3）

(市)

今後のスケジュールは、森林所有者あて事業者あてとも、2月初旬には発送し、2週間程度回答期間を設けた後、3月上旬までに集計を終えたい。

所有者あては6地区でそれぞれ25名を抽出して150名に、事業者あては17事業体を実施する予定

(5) ビジョン素案づくりについて（資料5）

(三木委員長)

今後のスケジュール（案）とビジョンのイメージについて説明

(小山委員)

暮らしの中に森林を取り込む視点について、アンケート結果からは読み取るのは難しいため、委員からの提案としてビジョンの中に盛り込んでいくような対応を図ったほうがよいのでは。

ビジョンが策定された後の将来も見据えると、余計に重要な視点ではないか。

(香山委員)

「私にとっての森林」や「人にとっての森林」という視点も取り入れてはどうか。最近では自分の居場所がないということをよく耳にする機会もあり、その居場所として例えば森林という切り口も考えられる。今のこの時代に即した視点ではないかと感じている。

(渡辺委員)

令和6年度のフォーラムの時期は、2月では少し遅くないか。早めることはできないか。

(小山委員)

フォーラムの位置付けをどこに置くかによって開催時期も自ずと決まってくるのではないか。ビジョン策定後を見据えたキックオフとして位置付けるのであれば、スケジュールにある2月で問題ない。先ほど意見のあった高校生への意見聴取、子どもへのPR、関連図書の展示・活用といったイベントについても検討したほうがよい。例えば、秋にパブコメをもらう前に夏休みの時期に合わせて高校生から意見聴取するのはよいタイミングだ。子どもへのPRを目的として例えば親子を対象にしたイベントを組んでもよい。

(香山委員)

これまでのイベントは参加者に学んでいただく要素が強かったが、来年度のイベントではビジョンの内容について委員から参加者に提示していくようなアプローチがあってもよい。

(小山委員)

8月や10月のイベントでは、参加者に対して提示する形のイベントにしてみてもどうか。

(三木委員長)

提示するためにはビジョンの内容がある程度固まっていなければならない。今週末フォーラムを実施すれば、ビジョンの方向性が見えてくるのではないかと期待している。

(渡辺委員)

資料5のスケジュール(案)にある「素案作成」や「案作成」は、具体的にはどのような作業を見込んでいるのか。

(三木委員長)

素案に関しては、まずは私と事務局でたたき台を作成させてほしい。その後、そのたたき台に対して委員に手を加えてもらうような形が取れないか。実際に委員に文章を編集してもらうのは4月以降になる。

(小山委員)

丸一日かけた委員によるワークショップの時間を設けてほしい。ビジョン素案に対するブレインストーミングをやっておかないと、素案作成者のみの意図なのか、委員の総意なのか、アンケート結果を踏まえた内容なのかといった整理ができない。

(環境アセスメントセンター)

ビジョンの大きな枠組みや方向性については、委員で決めていただきたい。それをベースとした必要な情報収集や文書の作成をこちらでお手伝いさせていただく流れであれば、手戻りは発生しにくい。

(三木委員長)

次回運営委員会は#09イベント後の3月中～下旬で予定することとし、所有者・事業者のアンケート結果報告、フォーラムのまとめを行って、ビジョン素案作成に向けた方向性や項目の確認ができればよい。

以上で第6回運営委員会を終了する。